

「第4回 鳴瀬川総合開発事業の関係地方公共団体からなる検討の場」

「第4回 筒砂子ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」

－ 議 事 概 要 －

- 開催日時 平成25年5月9日(木) 14:30～16:30
- 場所 大崎合同庁舎 1F 大会議室
- 出席者
 - 構成員 石巻市副市長(市長代理)、東松島市副市長(市長代理)、大崎市長、松島町長、色麻町副町長(町長代理)、加美町長、涌谷町長、美里町長
 - 検討主体 東北地方整備局長
宮城県副知事(知事代理)
- 討議概要
 1. 検証に係る検討の進め方
 - ・意見無し
 2. 事業等の点検について
 - ・意見無し
 3. パブリックコメントで頂いたご意見に対する検討主体の考え方について
 - ・意見無し
 4. 利水参画者等から頂いたご意見について
 - ・意見無し
 5. パブリックコメントを踏まえた治水、新規利水、流水の正常な機能の維持対策案の概略評価について
 - ・意見無し

6. 治水、新規利水、流水の正常な機能の維持対策案の評価軸ごとの評価及び総合評価（案）について 並びに b) 総合的な評価（案）について

- ・最近、ゲリラ豪雨や爆弾低気圧など、これまでの想定を越える規模の雨量が局地的に、あるいは時間的に集中する異常気象がある中で、東日本大震災もあり、安全度に不安が残るようなものは造りたくない。
- ・完璧でないにしても安全度を高めながら、他の方法も含めてリスク分散をしていくため、まずは計画をして早く実行していく必要がある。
- ・震災で河口の沿岸地域が地盤沈下しており、この下流の安全度の負荷を上流で背負っておく、上流で今まで以上にカットしておくという視点も必要になると思う。
- ・いつ、だれがこの計画を実行するのかということが一番の肝心事である。地域に住んでいる、あるいは地域を預かるものの自治体からすると、これは河川管理者である国が、この経過、計画というものにどう責任を持ってこれを実行していくのかはっきりすべきだということがある。
- ・2つのダムを1つにすることから、技術的にもかなり高度の技術を必要とし、地域を翻弄してきた管理者の責任で早期に実行に移していただきたい。
- ・これから造る公共事業というものは可能な限り新エネルギーや環境にシフトすべきであり、再生可能エネルギーの付与を具体的な事業計画の中で実現化していただきたい。
- ・100年待たされたこの地域の方々からすると、もう議論よりも早く事業着手の段階に入っていただきたい。
- ・国として治山という部分、保水力を高めていくということにも取り組んでいただきたい。
- ・下流域の渇水対策、利水のためのダム建設であって、そのことに伴う大変な苦勞が上流域の地域に住む方々にはあるということを皆さん理解していただきたい。
- ・筒砂子ダムについては、地域が30年待たされて、ダムの建設は始まるものの自分たちが生きている間にダムはできない、この30年間は何だっ

たのだという怒りがあることを理解した上で、対策を講じていただきたい。

- ・田川ダムは、20年も待たされて、結局はつくりませんということであれば、その地域に住んでいる方々に対してきちんとご説明をされ、今後のことも含めて対応していただきたい。

- ・再生可能エネルギーを高めていくことが国民的議論になっている中で、一つでも多く水力発電を増やすことが国の施策としてあるべきだと思う。今あるものを残しながら、新たな水力発電機能を持たせるダム開発をやってほしい。

- ・再生可能エネルギーを増やししながら、新しい宮城県としてのエネルギー政策を真剣に考えていただき、県の企業局も事業者として運営できるような方策を積極的に考えていただきたい。

- ・東日本大震災のときに、漆沢ダムからの配管が相当破損して、飲み水が来るまでの間に相当な期間がかかったため、ダムから飲み水、飲用に使えるような水を直送できるような姿づくりが大事と思う。

- ・これまでの田川ダムの周辺の皆さん方のご努力、また、現計画で整備された用排水システムの部分的な再編への対応が十分なされるのであれば、この結論は可としたいと思う。今後の方向性を改めて打ち出していただき、地元の方々のご理解を得るような形で進めていただきたい。

- ・検討過程の中の遊水地については、土地を実際に購入して、現実的に遊水地化するということはほとんど不可能に近いと思う。ただ、非常によくご検討されたという感想を持った。

- ・構成員より「最有力案について、賛成」の声あり。

7. 意見聴取等の進め方について

- ・意見無し

(平成 25 年 5 月 15 日 事務局とりまとめ)